

2023.  
1/5(木)  
15:30~17:30  
ニュースパーク  
(日本新聞博物館)

# 「子どもたちを囲む情報の森

## ～冒険の仕方をどう教えるか

子どもたちはいま、真偽ないまぜのたくさんの情報に囲まれています。

ニュースパーク（日本新聞博物館）は、「情報と新聞」の博物館です。展示やイベントを通して、情報を見極める力の大切さを伝えています。

2022年3月、「情報の森」の冒険の仕方をテーマに展示を刷新しました。「情報の森」とは、情報の一つ一つを木に例え、情報がたくさんある様子を表しています。地図はありません。展示では、情報に接する際の心構えを冒険のアイテムなどに見立て、4人の賢者が冒険者（見学者）に授けます。

SNS時代の「情報の森」の中に生まれた子どもたちに、冒険の仕方（情報との接し方）をどのように教えればいいのか、先生方も模索しているところではないでしょうか。

今回は、展示にご協力いただいた4人の方にご登壇いただき、当館の展示に込めた意味をお話しいただきます。その上で、参加者の方々から日ごろの悩みや課題をお聞きし、共に考えていく時間としたいと思います。

**日時**

2023年1月5日（木）午後3時30分～5時30分

**会場**

ニュースパーク（日本新聞博物館）2階イベントルーム、オンライン（Zoom）

**対象**

小学校の先生や学校司書の方を主な対象としていますが、校種を問わずこのテーマにご関心がある先生方や学校司書の方はぜひご参加ください。

**定員**

会場：40人、オンライン：100人まで（先着順）

**参加費**

無料（会場でご参加の方は、特別に無料でご入館いただけます）

**講師**

松田美佐氏  
中央大学文学部教授



藤代裕之氏  
法政大学社会学部教授



下村健一氏  
白鷗大学特任教授  
「想像力のスイッチを入れよう」著者



二田貴広氏  
奈良女子大学附属中等教育学校主幹教諭

【主催】ニュースパーク（日本新聞博物館）

# 「子どもたちを困む情報の森々冒険の仕方をどう教えるか」

## ■ 講師プロフィール

中央大学文学部教授

**松田 美佐 氏 (まつだ みさ)**

●1968年兵庫県生まれ。91年東京大学卒業。96年東京大学大学院人文社会系研究科満期退学。東京大学社会情報研究所助手などを経て、2008年より現職。

法政大学社会学部教授

**藤代 裕之 氏 (ふじしろ ひろゆき)**

●1973年徳島県生まれ。広島大学卒業、立教大学21世紀社会デザイン研究科前期課程修了。96年徳島新聞社入社。2005年goo(NTTレゾナント)、13~15年関西大学総合情報学部特任教授。

白鷗大学特任教授

「想像力のスイッチを入れよう」著者

**下村 健一 氏 (しもむら けんいち)**

●1960年東京生まれ。85年TBS入社。報道アナウンサー、取材ディレクター等を務めた後、2000年に独立。10~12年内閣審議官で政府の情報発信を経験。19年「令和メディア研究所」開設、主宰。小学校の国語教科書執筆から社会人研修まで、幅広い年代のメディア・情報教育や、メディア人の教育に携わる。

奈良女子大学附属中等教育学校主幹教諭

**二田 貴広 氏 (ふただ たかひろ)**

●1972年秋田県生まれ。新潟大学大学院現代社会文化研究科修了。秋田の公立高校で教員キャリアをスタートさせ、2004年から現職。国語科としてメディア・リテラシー教育にも力を入れているほか、進路指導部主任なども歴任。

## ■ お申し込み方法

イベント検索サービス「Peatix」からお申し込みください。

<https://peatix.com/event/3437311/>

※Peatixをご利用になれない方は、メールでも受け付けます。メールの場合は、①参加方法（会場またはオンライン）、②氏名、③年齢、④電話番号、⑤校種・学年・担当教科をご記入の上、npevent@pressnet.jp あてお申し込みください。



## ■ アクセス

- <電車でお越しの方> • みなとみらい線「日本大通り駅」3番情文センター口直結  
• JR・横浜市営地下鉄「関内駅」から徒歩10分
- <バスでお越しの方> • 横浜市営バス「日本大通り駅県庁前」から徒歩1分
- <車でお越しの方> • 首都高速「横浜公園出口」から約3分  
(ニュースパーク専用の駐車場はありません)



**N** NEWSPARK  
The Japan Newspaper Museum



Tel.045-661-2040 Fax.045-661-2029 <https://newspark.jp>

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館者のみなさまにマスクの着用などの対策をお願いしています。詳しくは当館ウェブサイトをご覧ください。感染状況によりオンラインでの登壇、もしくは、聴講も含めて完全オンライン開催になる場合もあります。